

「わかしまね」の事故及び今後の水産実習について

1 事故及び経過の概要

(1) 事故の概要

昨年10月8日（水）水産練習船「わかしまね」は、境港に入港途上、その右舷に中型まき網漁船「第二十二事代丸」が衝突し、沈没した。

同船には、隠岐水産高校海洋システム科の生徒13名、指導教員2名、乗組員10人計25名が乗船していたが、相手船に救助され、うち2名が軽症を負ったものの、全員生命に異常はなかった。事故直後は、乗船生徒の多くに動揺がみられたものの、現在は安定を取り戻している。

(2) 「わかしまね」船体の処分

沈没箇所が航路上であること、及び船体再活用の可能性も考慮し、速やかに船体を引揚げ、最寄りのドックへ曳航し、状況を確認したが、以下の理由により、やむを得ず廃船することとし、一般競争入札により売却した。

- ① 修繕費用が約5億円と高額が見込まれること。
- ② 仮に修繕したとしても、将来的に故障などのリスクなどが発生する恐れが相当あり、必ずしも沈没前の状況への復元や建造時に予定した耐用年数まで使用できるとは限らないこと。

2 本県の水産練習船について

浜田・隠岐両水産高校の漁業機関係の学科（定員各40名）の総合実習として、また、主として両校専攻科（定員各10名）の海技士資格取得に必要な乗船履歴（本科で3月、専攻科で1年3月）を取得させるため、2隻の水産練習船を使用し、必要な水産実習を行ってきた。

- 大型練習船「神海丸」（499T、平成9年3月竣工、生徒定員44名）
 - ・太平洋マグロ実習（乗船履歴取得のためには日付変更線を超える必要）
 - ・多目的航海（高校生の国際航海体験、小中学生の体験航海）
- 中型練習船「わかしまね」（196T、平成18年3月竣工、生徒定員22名）
 - ・国内航海実習、イカ釣り実習等

3 当面の措置

(1) 今年度の対応

「神海丸」の3学期の運航形態を変更して、「わかしまね」で実施できなくなった残実習を実施。

(2) 来年度の対応

「神海丸」による多目的航海をやめ、乗船実習にフル稼働させるとともに、鳥取県から2ヶ月間水産練習船を借り受け、必要な実習を実施する。

4 今後の課題

本県が所有する水産練習船のあり方（新船建造の必要性、船体規模、運航体制等）について、水産業の現状及び求められる水産教育という観点を踏まえて検討を行い、今後の方針を得る必要がある。